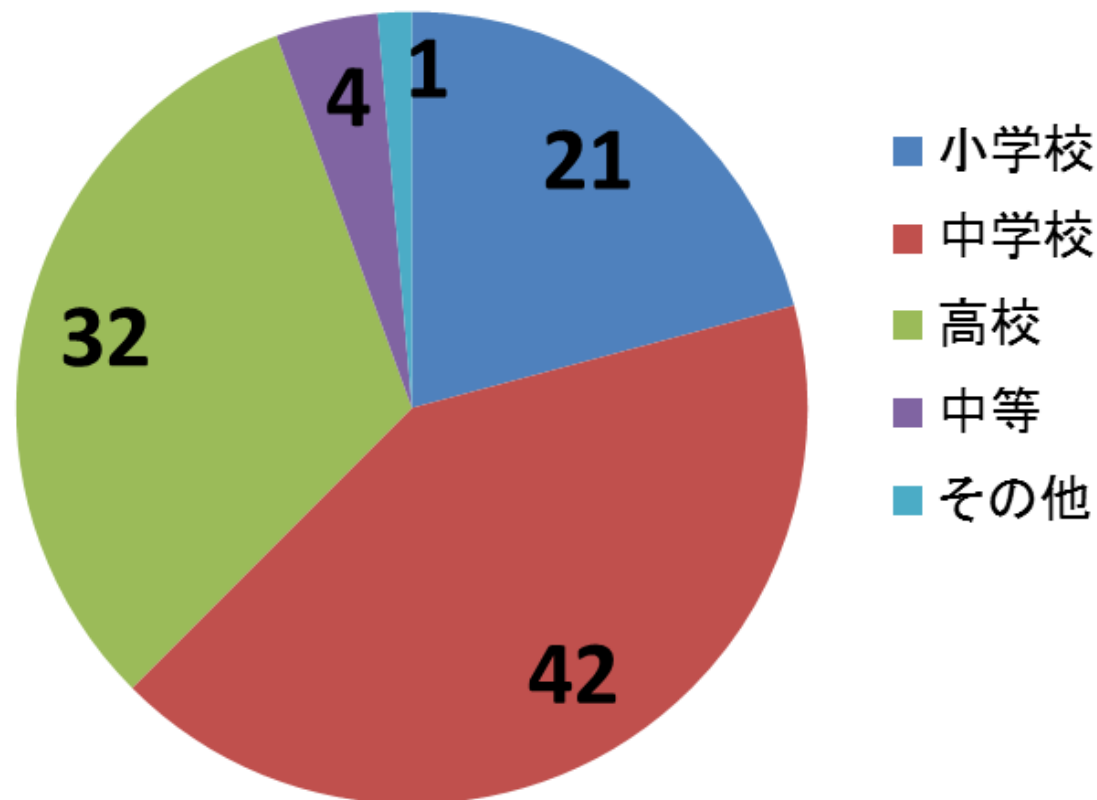


テーマ
『社会科教育研究における授業開発の
方法と課題』

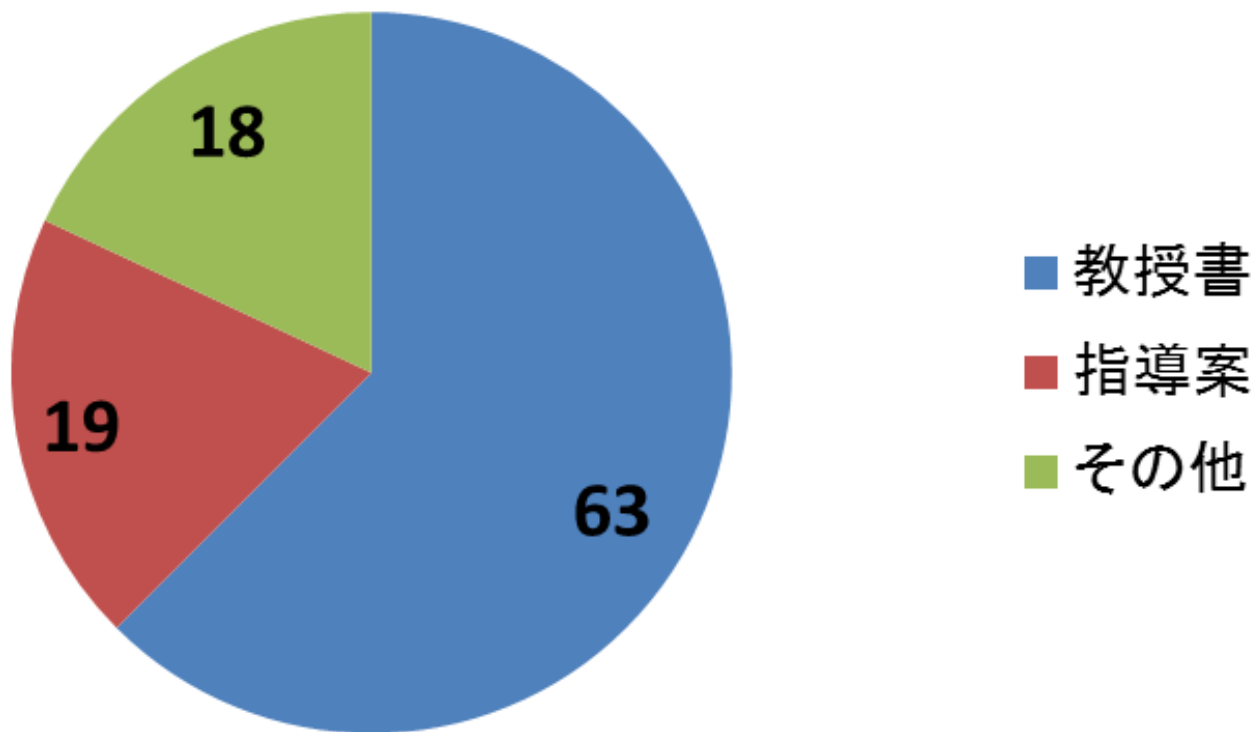
桑原敏典(岡山大学)

『社会系教科教育学研究』における 授業開発研究(第13号～第23号)

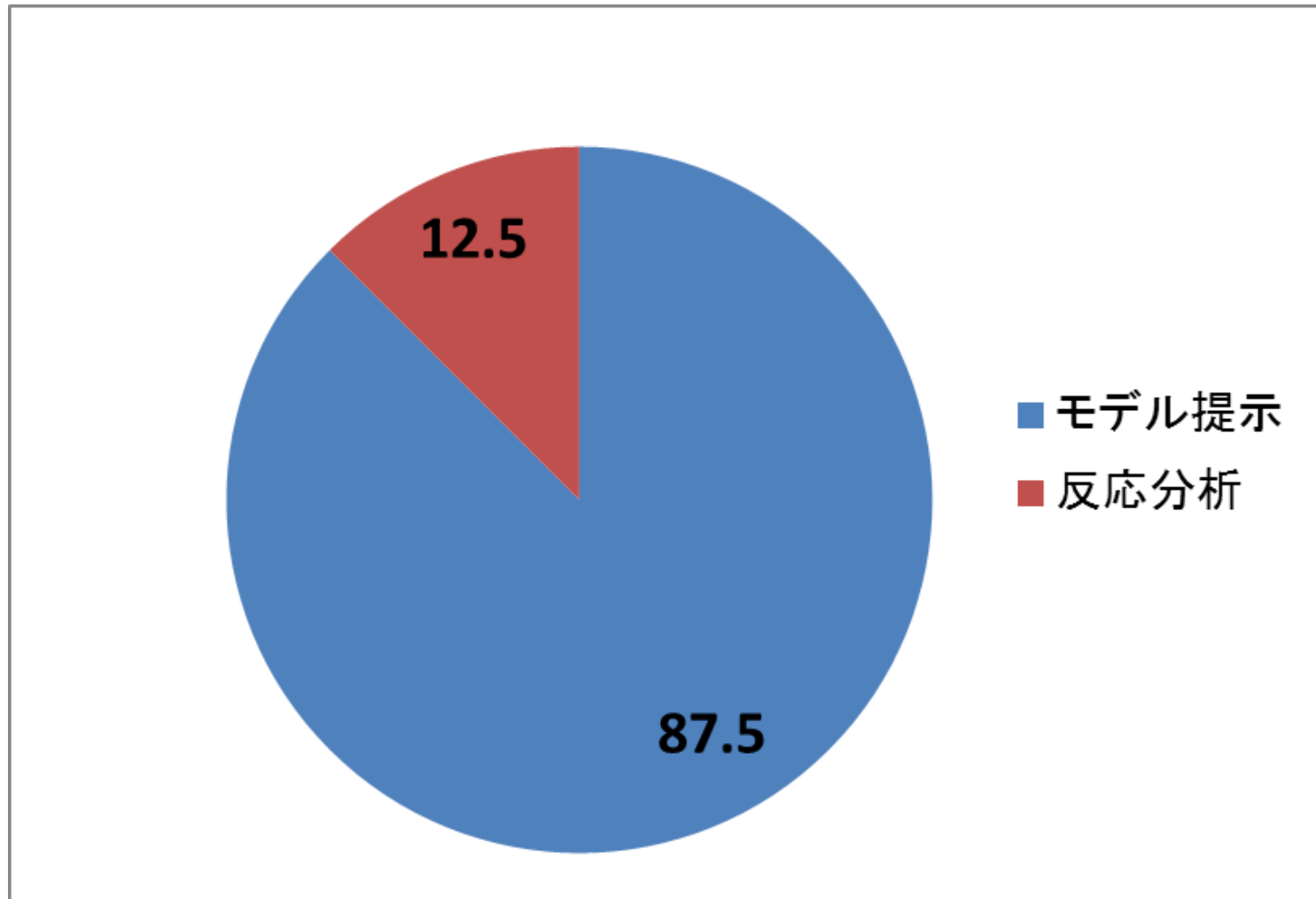
授業開発研究の学校種別割合(合計72本中)



授業開発研究の方法



授業開発研究における検証方法



授業開発研究の特質

- ① 小学校社会科に関する研究が少ない
- ② 教授書開発が中心
- ③ モデル開発が大半

社会科教育研究における開発研究の課題

- ① 小学校社会科にあった方法の確立(教授書の形式の再検討)
- ② 授業理論にあった方法の確立
- ③ モデルとなりうる方法の確立

授業開発研究(教授書開発)の前提

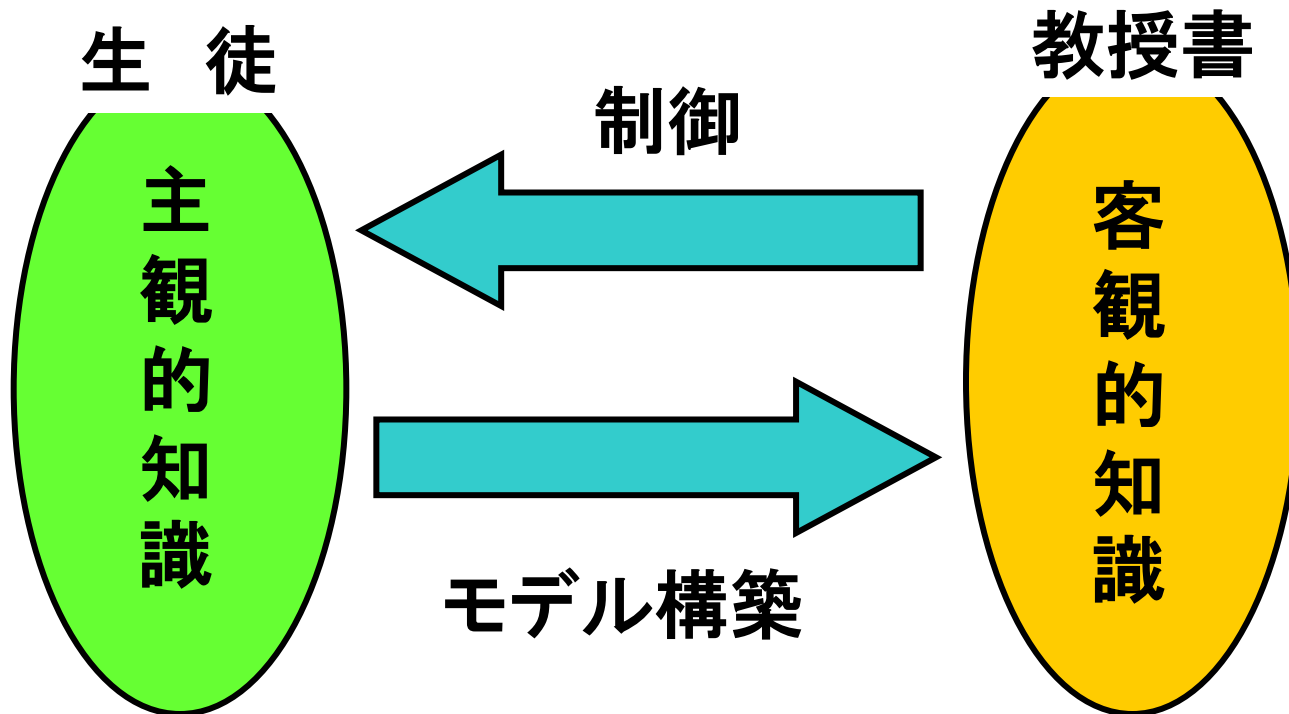
1. 社会科の授業を願望や信念からみるのではなく、**論理実証的**にみてゆくべきである
2. 社会科は、人間形成ということでもっと引き下がるべきである
3. **客観的に根拠づけられる**、子どもにとってより意義のある社会科授業を構成する原理は、「**科学的知識**を科学的探求の論理にもとづいて習得させる」というものである

(森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書、1978年、「まえがき」より)

教授書開発の論理

「社会科の授業は、主観的知識をよりよく成長させる**客観的知識の成長過程**、より正しい理解を導く**より確かな説明の過程**として構成され組織されている」

(森分孝治『現代社会科授業理論』明治図書、1984年、p.57.)



教授書開発の手順

- ① 到達目標の設定
- ② 探求のルート of 構想(科学的説明の過程としての授業構成)
- ③ 資料の配置
- ④ 教授学習過程の組織化

教授書開発の正当性

◎モデルの提示による理論の論証

- ・「子どもに尋ねても『ひらめき』で答えるだけ
- ・尋ねて人間が分かるというのは、「人間をコントロールできる」という発想で「危ない」
- ・理論の正しさを論証するのではなく、より理論を探求する運動
- ・授業実践と直感的判断に基づく改善

教授書開発研究を取り巻く状況の変化

- ① **社会科教師の多様化**（熟練の度合い、レベル）
（一まとまりの完結性のある教材について、それにしたがって教授すれば失敗しない授業を行うことのできる指導書）森分『理論と方法』
- ② **社会科教育の目標の拡大**（価値観形成、意思決定力育成等）
- ③ **研究方法の統一化の要請**（他の教育学研究や諸外国の研究との対話）

社会科学教育研究の多様化

- ① サイエンスとしての実証的・経験的研究
→ **子どもの認知変容調査**
- ② エンジニアリングとしての実証的・経験的研究
→ **発達段階をふまえた教育プログラム開発**
- ③ エンジニアリングとしての規範的・原理的研究
→ **意思決定型授業、構成主義に基づく授業に適した教授書開発**

社会科教育研究の新たな試み

- ① **教師の成長や教師と子どもの相互作用をふまえた授業研究**
 - ・教師の授業力向上プログラム作成(谷田部玲生)
 - ・学習書の開発(西村公孝・草原和博)

- ② **子どもの認識の変容を検証する研究**
 - ・認識変容に関する評価研究(池野範男)

- ③ **統一的な研究方法の探求**
 - ・シティズンシップ研究(池野範男)
 - ・研究方法の日米共同開発(草原和博)

社会科学教育研究に求められる普遍的条件

1. 社会科学授業でしかなし得ないことを、よりよくなすにはどうすべきかに貢献するものであるか。(固有性)
2. 授業は客観的根拠に基づいているか。(実証性)

社会科授業研究の新たな方向性

- ① 小学校社会科に適した形式による教授書開発
- ② 意思決定型社会科、構成主義に基づく社会科に適した教授書の開発
- ③ 教授書活用のための方策の開発